

平成28年2月12日

報道機関 各位

東北大学大学院情報科学研究科

## シンポジウム「もしも明日〇〇が起きたら」開催案内 ～「情報科学」から「防災」を考える～

東北大学大学院情報科学研究科では、東日本大震災から5年目を迎えるにあたり、大震災と「情報」がどのように関わったかを振り返り、今後起こりうる大規模災害に対し情報科学が果たす役割をテーマに公開のシンポジウムを開催します。本研究科を中心に7人の東北大学スタッフ及び伊藤仙台副市長が防災と情報に関する様々な側面から講演を行います。

つきましては、市民の皆様幅広く周知していただくとともに、当日はご取材の上、紙面・番組等で取り上げていただけますと幸いです。なお、ご取材の際は下記問い合わせ先までご一報ください。

### 1. 概要

東日本大震災から5年が経とうとしています。ようやく客観的に当時のことを振り返る余裕が出てきましたが、その間にもわが国では風水害、火山噴火等の大規模な災害が毎年発生しており、また東南海地震の発生なども予想されています。東北大学大学院情報科学研究科では、この機会に東日本大震災と情報がどのように関わったかを振り返り、分析するとともに、今後起こりうる大規模災害の被害を軽減するために情報技術がどのような役割を果たせるか、ということテーマに「もしも明日〇〇が起きたら」というタイトルでシンポジウムを開催することにいたしました。〇〇には多くの災害やそれに関連する事象が入ります。

本シンポジウムでは災害発生時における情報の認識と整理と伝達、次世代防災ロボットの導入、災害後の情報化対策と経験の蓄積など幅広く防災と情報技術の関係を考えます。また行政の立場から仙台市の伊藤副市長にも情報技術への期待を語っていただきます。

防災と情報科学にご興味のある市民および研究者、学生の参加を歓迎します。

### 2. 日時及び会場

日時：平成28年2月20日(土) 13時00分～17時00分 (受付開始12時30分)

会場：東北大学大学院情報科学研究科本部棟2階大会議室

市営地下鉄東西線青葉山駅北1番出口徒歩1分(地下鉄仙台駅から9分)(別紙参照)

4. 主 催 東北大学大学院情報科学研究科

5. 共 催 東北大学災害科学国際研究所

6. 後 援 仙台市

## 7. 内 容

### 第一部 講演

講演1. 「もしも発災時に判断に迷ったら」 邑本 俊亮 教授 (災害科学国際研究所)

講演2. 「もしも災害で情報が混乱してしまったら」 乾健 太郎 教授 (情報科学研究科)

講演3. 「もしも災害で形態が繋がらなくなったら」 加藤 寧 教授 (情報科学研究科)

講演4. 「もしも想定外の災害が起こったら」 田所 諭 教授 (情報科学研究科)

講演5. 「もしも街の姿が大きく変わってしまったら」 岡谷 貴之 教授 (情報科学研究科)

講演6. 「もしも災害の経験が失われたら」 柴山 明寛 准教授 (災害科学国際研究所)

講演7. 「もしも被災住民がバラバラに避難してしまったら」 河村 和徳 准教授 (情報科学研究科)

講演8. 「もしも」に備える学・官連携 伊藤 敬幹 氏 (仙台市副市長)

### 第二部 パネルディスカッション

第一部の講演者が、今後起こりうる「災害」に対して「情報科学」がどのように立ち向かうかを議論します。

## 8. 対象者

テーマ関心のある方はどなたでも (定員150名になり次第締切)

## 9. 参加、取材申込方法

参加希望は特設のウェブサイトのお申し込みフォームにて

(URL <http://www.is.tohoku.ac.jp/sympo2016/request/>)

取材申し込みは、下記お問い合わせにメールか電話にてご連絡ください

## 10. お問い合わせ先

東北大学大学院情報科学研究科

瀬戸屋 (研究企画室) TEL : 022-795-5813

E-mail: hideo.setoya.e3@tohoku.ac.jp

宮野 (総務係) TEL:022-7958-5813

E-mail : is-somu@grp.tohoku.ac.jp